

大豆・麦の生育と管理

平成30年11月号

北部振興局集落営農・水田第一班

今年の大豆は生育量が少ないため収穫は例年より丁寧に!!

◎汚損粒対策

大豆の収穫作業は品質を大きく左右します。規格外になると、数量払の対象になりません。**規格外を出さないように丁寧な収穫作業**を心がけましょう。

規格外の原因の一つは汚損粒です。汚損粒は、収穫時の土や雑草等による汚れが原因になります。この汚れは丁寧な作業により発生を抑えることができます。次の4つのポイントを徹底しましょう。

1.青立ち株や雑草の抜き取りの徹底!

ヒユやホオズキ等の雑草や青立ち株は、汚損粒の原因になります。

収穫前に必ず抜き取りを行いましょう。

2.土の掻き込みに注意

土の掻き込みは汚損粒を発生させます。

刈取り高さの目安10cmを必ず守って下さい。

土を掻き込んだ場合には、必ず清掃しましょう。

～土を掻き込んだ場合の清掃法～

- ・エンジンを切り、刈取り部の土をほうき等で取り除く
- ・1番、2番送りコンベアの土、残稈を清掃
- ・特にタテ送り部は土が固まり易いため、重点的に清掃



リフターキット

リフターキット 倒伏圃場ではリフターキットを装着しましょう。

倒れた大豆を引き起こし、刈取りロスを軽減します。

3.収穫は露がない時間に!

朝露や夜露は汚損粒の原因となります。露のない11時～16時に収穫しましょう。

前日が雨の場合は収穫を控えましょう。

4.大豆の収穫適期～手で折るとポキッと折れる状態～

大豆は収穫時期が早いと汚損粒や損傷粒が発生します。

収穫適期は、莖水分50%以下、子実水分18%以下になる時期です。

この時期は、莖が灰黒色になり、莢を振るとカラカラと音が鳴り、地際部の莖が手でポキッと折れる状態です。

裏面へ

麦の播種準備をしましょう！

◎ 排水対策は適期作業の基本！

一般的に麦は湿害に弱く、土壌の空気を多く必要とする作物です。
適期作業を行いやすく、湿害を防ぐために、排水対策がとても重要です。

- ・ **弾丸暗きょ** 2～5m置き、30cmの深さで施工し、排水能力を高めましょう。
弾丸暗きょをシートパイプ、額縁排水溝にをつなげれば、更に排水効果を高めることができます。
- ・ **額縁排水** 圃場内の排水溝は水の落とし口に必ずつなげましょう。
- ・ **播種直前耕起** 耕起すると圃場が乾きにくく、播種適期を逃します。
適期播種のために、播種直前に耕起しましょう。

◎ 酸度矯正～土壌診断で適切なpHに矯正～

麦は酸性土壌では、生育不良や黄化症状が発生しやすく収量が低下します。
最適な **pH6.0～6.5** にするために、土壌診断を行い苦土石灰等の土壌改良材を施用し適切な酸度矯正を行いましょう。

◎ 種子消毒～斑葉病と黒穂病の防除～

斑葉病、裸黒穂病は種子伝染性病害です。斑葉病では株の枯死、裸黒穂病では品質・収量低下が発生するので、必ず種子消毒を行いましょう。

種子消毒剤

麦種	薬剤	適用病害虫名		使用量
大麦・裸麦	トリフミン水和剤	網斑病・斑葉病	裸黒穂病	乾燥種子重量の 0.5% 粉衣
小麦	ベンレートTコート	条斑病・なまぐさ黒穂病		

※ラベル等をよく読んで使用して下さい。

◎ 雑草対策～播種直後と生育期の体系防除～

雑草対策は初期除草剤、生育期除草剤、土入れの体系防除を徹底しましょう。

播種前～播種直後除草剤

薬剤名	希釈水量 (10aあたり)	使用時期	使用量 (10a当たり)	使用方法	
ラウンドアップ マックスロード	50～100L	耕起前または播種前まで (雑草生育期)	200～500ml	雑草茎葉散布	
クリアターン細粒剤F	-	播種直後(雑草発生前)	4～5kg	全面土壌散布	
リベレーター フロアブル	100L	播種後～麦3葉期 (雑草発生前 ～雑草発生一葉期まで)	60～80ml ※麦に対して白斑症状 を引き起こす場合があります。	雑草茎葉散布 または 全面土壌散布	
バンバン 乳剤		小麦の場合	出芽後～小麦2葉期 (雑草発生始期まで)		300～400ml
		大麦の場合	播種後出芽前 (雑草発生前)		300～500ml

※ラベル等をよく読んで使用して下さい